

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

2m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

JAPAN

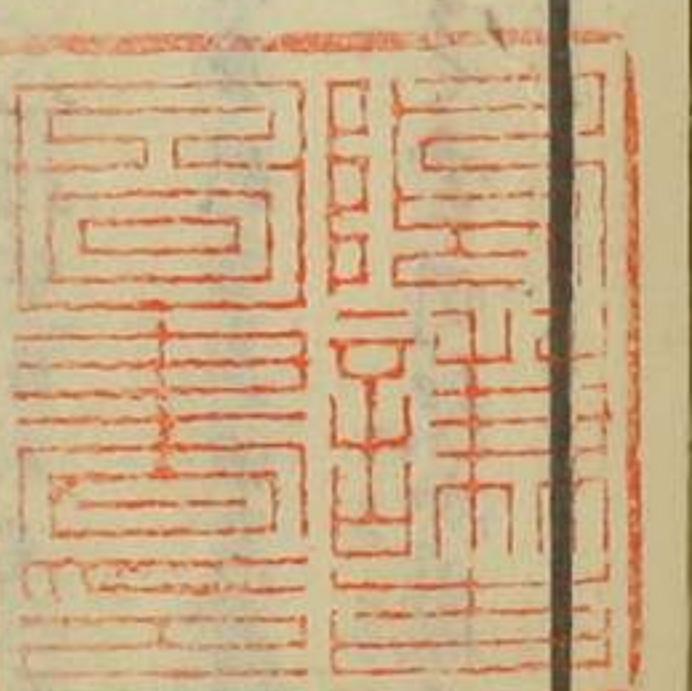
武江年表

五



武江年表卷之六

明和七年庚寅 六月閏



三月十一日より湯島天神宮閑帳○四月十日より済慈院八幡宮より京北野社
司不遜齋神吉草像奉地親世芳閑帳○凌莫称念ちよて二郎明顯ち御
御堂聖使方子三郎佛木閑帳○四月朔日より麻布善福寺より越後
守田井波園瑞泉寺親雲上人宝物木津せしむ○四月より深川玄信ち
より奥州今浦大用密ち御巡如東ノ移帳○茅場町茶師如東閑帳
○深川津名少く身延山奥院祖師恩子母神閑帳○四月十三日より
深川大佛勸進所より二月堂親世芳美宝物閑帳○永代寺より總金
内井端磨玉本地尤見安堵○五月より八月迄諸國大旱おおひこう 近至猶未出づれ
ひだり虫飛方乃

正江年表卷之六

俗ふは虫を力子と云麥稗も貴一野菜物の價より莫一
閏月神奈川の鯛ニテ喉全死海ハ苦煙ニテ馬ニテ魚ニテ死モ○六月上旬星月を勢めく
○麻布永坂光昭ち跡院や東閣帳○六月十九日八月中旬追圓院みて塞
峨清涼寺秋込妙果閣帳○門日より一ツ目八幡宮酒旅にて悠明布施兵方
天安帳○青山若光ちあて福金松本ち祝せまる宝帳○今年復添の秋込
閑帳あり一より以ひかへて山是明阿弥君秋込文佛内條考一卷編輯
ゆく守本坐て引る○閏六月朔日より西院あ十五堂よて武州松山祝る
ち毘沙門天安帳○七月廿八日夜乾の室あひより丹のびく又晴雲出る
○八月十一日より圓向院よて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門
帳○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡○八月廿一日より圓向院よて高野山十
遍名号称陀如来閑帳○八月より築地奉行よて甲斐轟村至福寺於伊
坊聖德太子閑帳○十月市谷大延ちよて雲州秋込嶽雲右清つ大圓と

成リ雷電為右歩二せ二家のね撲身死○十一月十四日官医望月三英卒
百里の男う○は冬太多く死モ○十月廿六日書家小笠原一甫卒名長和林理左衛
牛込太信ち小笠原

明和八年辛卯

正月廿日麻布うち芝辺追焼亡○正月十四日儒師宮城龍門卒名維翰ち田
玄國ち小笠原
○正月廿八日書家上田圭輔卒号池古堂
清美承也ち小笠原
○二月日不 村松町より出火
あ玉辺皆焼亡済ま御先前筋真先稲荷の辻ふりう○二月十日より上野
清水素千子親世芳閑帳○二月廿日より王子稲荷の神閣帳○三月初旬より
伊勢某宮流移いせ某宮
うつて五月上旬一日みナに万人よ乃人とりて○三月八日より
木下川某師如來閑帳○四月廿日うち御先花植院めく式羽比企郡若光
ち收束
九番親世芳も深町主閑帳○四月十一日より圓向院よて明暦大火焼死溺
死輩に万日回向修移○四月十五日より下谷五条天祚并天滿宮閑帳○四月廿一日

とう不恩池安才天園帳 ○二月廿九日方うじひ富士田楓江死きじト
考次と云を極め上手
ありせんねに付かふ
華○四月朔日より淺茅奉法もみて房州东条小松原境恩も祖師園帳
○同日とう不恩安才天内もそ然食極まし祝迦如東園帳 ○奉前又之移
向性院みて信乃川東南照寺跡地か東園帳 ○四月朔日より淺茅寺門又
く上總望陀那大久保村大日ち大日ぬ東熊野櫻観園帳 ○戸崎町垂量
院もそ奥乃葉折垂能も跡院か東垂能上人像園帳 ○淺茅町深空も
文殊井園帳 ○四月に戸雪移る ○四月八日ね産家後若梨美平マタタキ
サキスカ祭太
と早川芳達の出多し。芝青ねるみ義方。又義方
種考。と早川曾根温泉有す温泉の紀行多り ○四月廿二日曉寅刻吉魚揚在町アキヤマチ
仲。桔陰庵
少火廓中焼亡ハカルモ九郎助翁考の社説。今戸桔陽辺 ○五月二日北震 ○五月十七日
光物也ぶ ○五月より三股新地築立物マツタケ
安永元年の
件又記せり ○六月二日大地震
○女房通用止 ○東堵塞瓦の小さく成唐茄子と号してもやり也

○薬研堀とりて米沢町一下目二丁目三十目の地先小平一入植うへる今年
六月より十一月迄は埋立す沿町地と成薬研堀埋立地と号し ○七月朔日より
筑茅燒内みて諸舎永谷貞昌院天満宮園帳 ○七月朔日より圓院も
大和當麻誕生ち跡院如東園帳廿五菩薩ムダラク
東途會修祓あり ○八月大風人
家多く倒れ坐伏りゆひ切どそ永代塔一高り大塔あるそ止る又一破佃高と
石川島の名一姓と人名を取て號 ○九月神田町神祭礼延引安永八年より
牛車 ○秋永代寺小築山泉水をとりて其山を造りて牛形小梅延燒け豆巖も
なり 中小河岸小築立する松の葉ようか火して牛形小梅延燒け豆巖も
なり ○秋永代寺小築山泉水をとりて其山を造りて牛形小梅延燒け豆巖も
なり あらびち跡山を造るべ永代寺の龜中堂ウジコウヂ
理小
近辺の町並のりの、からふかひよるべー ○神田佐柄木町酒店山川十右衛門
親世も係三十三軒を造りて浅茅下谷の寺院三十三所不安置して服礼

所
見

此年間記事

△儒家 宇佐美惠助 水 松崎才堯 觀 井上文平 金 井上源堯 東 井上仲

岡井郡太支 嵌 △詩文能弥八 壴 細井喜之郎 平 宮原三右衛門 明 須知文平

葛坡山人 千葉義左衛門 芸 二浦方吉衛 山之内忠右卫士 熊 书家 三井孫左衛門

澤田文二郎 东 松下君嶽 乌 佐代东九清 师 伊若善堯 益道 馮陵山人

小河保壽 畑井九皋 △和哥加茂善惣 田 伊豆善堯 田 伊豆善堯 田

稻生魚秀 △物產 田村元雄 伊豆德 溪後妻梨美 △画家 将野榮川院

捨木鄰松 若田紫喬 佐賀嵩之 三輪花信秋 諸葛監 文教以といふ名を上
手門人よ劉安生也

△俳諧 萩太存義 買明治山田社 宝馬露十 △浮世繪師 勝川春章 丹波

一筆、秋文調 磨田湖詠秋 柳文朝 小松孤石庭木竹

○三井親和みちの きんわが篆書そじょなる。もう親和隸とて篆字のかくれる形を寫物とし
る事ある。又ぬ女の衣類表へ變化ふ」と裏ふ様様を付すともある。○細身の
腰巻こしまきである。武家よも細身刀を用い。○土平どひとひよ飴賣ある。谷中多森稻若
境内の茶道鍵孔えんやのむせん減草鷹山根杏木の下揚枝店柳風のむらも
美安のゆえあり。喜伝の席画。○曲亭云明和二年めいわの以虎山の彩色榜りろう。また
て板木師金六とうぎくとひよりの板榜いたわ某もしくらし板木いた見當けあを付する事をくわづす。始く
四面遍の彩色榜いたわを製つくり。出でて、程々ときとき而まことに板張いた事こととあり。とちく
蜀山翁云此榜非くわざくも萬まん千せん粉こなを榜いたハ延享元年。○明和二年めいわの以太板人形いた吉田
に立たて居ゐ右官榜いたわつユゆままを拂はとすとひり。○
文三郎同文吾板いたわりり。以彼かれう風かぜを立たてああひて羽は羽はの上うへ再なせれをめぐらり
袖そであく袖そでく成なり。○琴曲生田檢校げんこう行ゆる。○富士因帆いんぱんに秋あきに春はる夜よ
おが長嘆新内しんない節降陽行せいようる。○二挺鼓ふうある。○朝鮮じょうせんの弘慶子こうけいしとひよ某もし

市街をのろく 棕色肩袖衣類のよきの
先まりて強うる

棕色肩袖衣新叶のま
先まりてうねうづ

妻市住をのるく先まことにあらうがる。○久晦日の夜扁妻の声か
ナラシテ、時代とうひをよ止みア○曳尾菴云明和安永の比前除猫
の繪かんとて市中をあらへ常州の者とて名を雲友とり。又蜀山の一話一言
白仙とりす年の年守みちに坊主と弘羽の秋田ふ猫の宮あり。新めよりやうて猫と虎とを
画きて社は一枚ツササ納毛とり。自ら猫うゑと稀。く猫と虎とを絵画く。筆を捨て都下を
うれある。き猫もかくといひ。この日入見を馬。されば僅の價とえを画く。その猫の筆と
避へとりへ云くとあり。りわれう先する。未詳

卷之三

二月初午後まち。西宮稻荷神社を後毛を後
休む○二月廿八日江戸天火坤より良
「未」○二月廿九日乾より西南の風烈きび、土煙つちえ天あめを覆ひ日光勝就まさう午の刻
同馬引人坂アマヒンジン大田おおた、天あめより出火でひて永寧町通えいねいちょう白金左町麻布辺しらかねさわまへ一系いっけい若福わづくら
のこる三田新綱町辺狸完坂まつわらあん、市谷坊いちやぼう、本堂ほんどう
開山堂かいさんどう

震おどり竪虎門日比谷ひびやの堀先門櫻田さくらの和田倉わだくらの常盤櫻門
神田橋御門木焼亡右道筋じんはつ内うち秋庚あき藩ばん邸て所焚あぶと承うける日中橋南なか通
三官町さんかん同西例元四日市町至いた町西河岸かわ辺より南傳みなみ町中橋ちゆうを限り上橋
町近小ちかへ本町石町邊東西神田町じん武家方ぶけ一系いっけ小川町入口渡河臺わたり
高平橋筋たかひら達橋御門外神田町じん神田社聖堂湯鷺天神社門不むを過
一条上野仁王門山王社下寺不む跨車坂下谷邊度たか小路こう御徒町三味線坡坂
中入谷金松舊うのき小塚原吉原町子住大橋向掃うがり新宿浅草あさくさ筋すじハ下谷
度德たかもあ通新宿阿波川町あわ越邊本郷寺御雲深草寺うねり本堂ほんどう修しゆ了りよう傳法
院并寺中馬道因町移い越邊本郷寺御雲深草寺うねり本堂ほんどう修しゆ了りよう傳法
より出大だいて森川宿追分狗込白山傾城きやう櫻門入い又同日考之時奉々丸山町まる山町
千太木入い根津谷中感應かんのう芋坂根岸いも坂さか小室こむろ又翌晦日未み刻とき止とど又翌晦日已いよい

刻小風ふうり或东风は故常盤橋外の大太傳る町邊馬喰町二十日迄
濱町邊櫻町葺盛町あ庭の草居櫻芝居四種小網町大坂町田所町經波町
住吉町邊伊勢町鐵西町室町通日早橋中橋京橋ふいづる未刻双方の火
焚り此時大雨降風強るは火事も六里幅一里太小名藩邸も院神社町應
の新駕おひき一燒死怪けい家人更數をかげ上野仁王門再びの焼亡に感應も又重塔
。吉宗町役宅今戸楊楊山の宿あゆ川八幡並佃丁歩る芳町の街絕郎も仲丁の役宅ゆゑ
。大火後役人役大田を再建せしもの役ある人五百羅漢の石像を造立し。雪中菴夢太
模山町よしやまに住す。火災より逃れず御川ら方極要津ち中の菴より『俳諧を志す
青鬼柳せいきりゅう』といふをきり。翁みまくらへゆきをとひて百韻をみて夜を既せ。とぞ
○三月又日ちう不思無乞肉むぎを承うけ矣如嘗然じよ也稿行こう四種閑帳

○四月十日より牛の所前王子櫻現閑帳○四十九日善方天火西より东北へ
走ふ○四月八日より小日向大日坂妙見院大日如意閑帳○魚籃親世
吉閑帳○四月より五月近諸山疫癪行えきやく○四月に谷内翁翁宿游舍

再島所免あり甲州道中人馬絆立の示とありて繫留せり○大川中洲抄北
築立成施以町役の安永四年ふ至り全く成さり。寺地ハ野天橋より南の方酒井
川岸九ニ丁余坪敷九千畝。幸七坪余茅屋九十三軒。内四季庵と云。ハ小東の隅の
料理舎。殊々大度。こそ湯屋ハ三軒あり。屋の家数。かく。安永に年より天保八年
迄十一年のち。この中側の木組ひあ玉橋。お後の北面を牀く。シケ寛政己未元のごとく
朱樂蔓にが縫の大松油覽と。よる。紙。中油の。ゆ。そく。記せり
○七月六日画人佐脇嵩之卒さわきたけし。六十才。名。賢。林。高。義。淡。葉。誓。教。中。称。名。院。華。以
経民の困苦。一〇八月。音。儒。師。村。士。淡。安。卒。名。宗。純。林。林。在。惠。○八月。金。助。
工。太。森。英。昌。卒。卒。八。助。○八月十七日。大風。再。度。小。強。被。覆。車。深。川。柴。水。床。
上述。事。大。船。永。代。橋。損。失。○八月廿七日。土。佐。左。京。少。道。光。芳。卒。卒。亥。
○九月。式。朱。猿。通用。始。○十一月。朔。日。歿。九。時。以上。野。所。奉。場。失。火。
○此。冬。初。齋。と。以。人。日。善。里。舟。擊。松。碑。建。小。海。入。江。貞。文。撰。也。

○再校傍補江戸砂子梓乃沾涼ダニラウ冬涉校訂タツカイ人

安永二年癸巳 二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒 林彰彦傳又文吏玄岱の三男 ○三月音より牛島

上野護國院より葬入

長命ち弁才天閑帳 ○二月より圓向院焼肉一言祝焉閑帳 ○同月惱度申堂
青面金剛閑帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より御寄弁才天閑帳

奉

○同月より生先福壽の神閑帳 ○四月午の日築地小田原町浪除稻荷祭

奉

町より参詣おひに生故休む ○二月末以降疫病仍々人多く死を

江戸中

三月より音まで九十九万人

度死とよ大方中人坐下あり

所救キサウ

と朝鮮人參を坐す

○四月よりお召の爲

度死とよ大方中人坐下あり

所救キサウ

と朝鮮人參を坐す

○四月より疫病仍々人多く死を

江戸中

三月より音まで九十九万人

度死とよ大方中人坐下あり

所救キサウ

と朝鮮人參を坐す

○四月より疫病仍々人多く死を

江戸中

○同日より魚藍親世耆閑帳○四月朔日より六月廿一日迄大師河原平間寺弘法大师中歎稿移向院迄て閑帳○四月四日より六月八日迄本所表町卒多祖師閑帳○四月八日より五月十八日至木下川茶師如來閑帳○承代寺内丈六親世耆腰絆佛閑帳○四月十八日より六月八日迄淺茅寺親世耆閑帳○西門院西對西所より信昌塙郡白鳥山康樂ち圓光大师御影松齋上人木像閑帳○二本桜庚岳院より仙臺往生ち寔牛伊豆圓光大師閑帳○六阿院東木親世耆閑帳○四月廿番西が京垂量ち親世耆閑帳○四月十八日より六月八日迄淺茅寺内日音院雨宝童子ね壽院かく弁才天瓊杵像閑帳○淺草池の妙高も弁才天閑帳○五月十六日より龜戸天満宮閑帳○六月六日大雷世七ヶ所小落る○六月廿二日太風雨家屋を損し樹木を倒る

○小石川傳通院山内福聚院大黒天交のひより江戸中構中を修んで甲子の年脩今年より始る○七月朔日より獲國ち卒多如亥海親世耆閑帳○同日より小石川大塚大慈寺親世耆閑帳○七月十日古筆了延卒辛未○八月十日市谷八幡宮參礼神輿を渡し一牛一獣物奉る○八月津多方裕元祖禱契新内死辛未○九月朔日より市谷八幡宮肉茶の奉禮行閑帳○九月医学鍼灸講坐成禮を○九月廿日生王山聖天宮參礼神輿を渡し一産子の町より出一獣物を以て生後休む○九月廿一日小石川白山權現素れ神輿を渡し一産子町より出一ねりぬを出へ○九月深川釋教座止○大川橋塔と掛る俗名吾妻十月十七日渡り始む○十月廿一日儒師鶴益一卒左勝鑑子長應其名をもつても雲葬ひ○画人鳥山石燕豊房を山彦とり繪本二巻を以て之處フキボラシの彩色櫻をエヌせしめ此を始とほは安乃貞翁の話石燕の周信の門人すに板刻の墨本色

○又此時代橋の珉江といふ繪師りと云繪翁師あり一橋の彩色を工
支一職人部教とりて繪筆を以て之を外俳諧の点式みど製して行き
しがやがて廢れたり○投扇の誠行毛筆是を表づ

安永四年乙未

十月閏

三月十七日より回向院にて京清水田養院_{景清守}本尊 千手觀世音毘沙門天
撫軍地蔵_{千手觀世音}開帳 ○ 同廿九日分淡谷長谷寺_{本尊}にて京音羽山清水寺
粵院千手觀世音_{思惟天地菩薩}開帳 ○ 太井来福寺櫻樹を裁絶く
○ 四月朔日より神田上水源大盛寺井頭新才天開帳 ○ 伴久戸明神
八幡宮開扉 ○ 四月廿切通一 時の縁再興 ○ 寝戸聖廟不樓門
建屋上小_{四社} ○ 大川中洲築立地_{中洲}の家居建續町名を三股富永町と号
一川辺小萼簾_{ナガタカ}の茶店をうけ_{タチ}て安月御涼殊々繁く絃寄_{ギタカ}畫

夜小喧

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休說湧金門行樂此中難具論烟暖四時花世界月清萬頃
水乾坤垂楊岸岸樓臺出遊舫人人歌笑宜輸却杭州綠底事恨
無蘿白闌詞源

中津納涼同伊藤士善

日落江天闊暑收趁涼輕舸向中洲燈棚夾岸花相映端棟卧波
橋欲浮鳳管數聲風嫋嫋星河一帶水悠悠銀鑿倒畫人難醉白
紵携歸滿秋

中津漫興

十里清湖鏡裡天繁華惱客動留連鷺鳶沙外芙蓉雨楊柳橋頭
翡翠烟祗見黃金半買笑誰知白髮暗催年笙歌眼底鎮長滿自
是來舟非去船

○四月十九日惠明主院にて藻金松本寺親世音同岩殿寺親世音同
室戒ち親世音諸金松本寺の内一畠尤翁井開帳 ○ 七月十九日回向院_之
之伊豆ニ高老山_山富士山本寺_之法院如東開帳 ○ 七月十九日回向院_之
てね忍名塔峯阿弥陀寺強姦_元上人本寺法國光_所佛開帳

○七月より市谷柳町方祐院親世の閑帳○八月十三日より晦日まで深川八幡宮閑帳○同廿二日より護國山内にて移文三千に番親世音不移閑帳○八月茅場町某の境内にて敷野法界の朝日山東閑帳○九月朔日より音羽町九丁目田中八幡宮閑帳○同日より世ノ子坂田町世縦稿花天満宮閑帳○九月十九日より牛込赤城明神閑廟○投壺の技行る事と見えず大内懸耳の門人田江南といふ人投壺のれど研究一法と傳へ投壺指揮投壺矢勢圓解木梓行者○紀伊玉孫文左衛門塙地坂田町又住一終ニ善一くるが能勝せ好み龜山と号ひ後難鑿一ノ明西とりよ今年六十歳才五と傳る松文子孫○十二月廿二日儒師松彦觀海卒名維時松大彦
麻布至多小糸○蘆荔よりあらー蟻猪アラシとりよ獄神田仲庭町田村元雄の家より一ツは淺茅の境内にて見世物と云猪の大サ子を斧おもて骨数百本ばかり燃る時ハ此骨逆立て忍ろ一き箸せあら

安永五年丙申

正月五日儒師村士一秋卒名宗章号弘水林行義
平父獨逸太田吉上義行○正月廿八日より柳島法性寺妙見宮閑帳○二月風邪流行○三月東より秋の始を麻疹流行人多く死す○三月廿二日物産家田村元雄卒先づ名元臺誠英
名元臺誠英○四月廿八日詩人太内熊耳卒八十名承裕林忠吉丈下谷廣植ち不
義以男せ業家とりよ○五月六日より八月八日迄田向院にて伊勢白子親世の子安親世の閑帳○五月朔日より矢口新田の祚幸地十一面親世の閑帳○同日より永代ち花束八幡宮閑帳○七月終日より永代ち花束八幡宮閑帳○七月廿九日萩生道満卒七十之子
名惠宗子迪林惠助四谷○八月九日儒師宇佐美瀬水卒名金谷
男子○八月九日儒師宇佐美瀬水卒名惠宗子迪林惠助四谷
号金谷益と云前痴の妻一產さんふ三女を生れ名を梅松さくとゆきの様の綱語ありといふも少く少く化りて街頭よくひろとあり○品川の辺を石地藏經を讀む声聞あるとそば人呪ふ行一ヶ地藏寺の

為覆を放してつるふ後の方々蜂の巣ありて多くの鳴の声瀆怪の様え
えり。○九月十三日東叡山瑞穂殿安松堂御修復祈始
○十月廿七日書家伊藤益道平名子乃林若庵○十二月十日夜二更のころ
新座那木明ち次上親世彦卒堂焼亡本多火中ふ埋れ○十二月廿三日儒師
伊東渤海卒名晃 清英
万葉小葉

安永六年丁酉

正月廿一日曉青山御多大工町焼○清英報恩ち親雲上人お物の什室を
焼セム○三月廿日より六月朔日まで清英も親世彦並焼内神仏熱闊
爐あり開基より千百辛年みなと云佛人町万葉の草花より清英妙吉院の
焼内又山是時阿先生住ひ居と有ひ燒石
開爐あり一ぞ拜ひはあそ
中谷と云今ハ中田とりよ

石塊ありた思ひのうねみと今ハあら田の里と云

百葉

ノ一 世はまことにやうやくもいと極めりとひもあらえの里 明和
○二月廿五日より湯寄也は宮本社建立成社は村閑帳○三月同白野長
谷ち境内親世彦閑帳○清英唯念寺称念ち湯池深泉寺より七日ツ
下野高田天辨一光之彦佛舌帳○四月終日より圓向院閑山獲念公傳中
千杵佛高木阿弥陀堂境内藁芭赤才天一言親世彦閑帳○同日より青山
善光寺光明院閑帳○清谷長谷ち二丈六尺親世彦復翁の像を
外古佛靈室閑帳○四月より下谷ち町蓮城ち祖師日親上人閑帳○橋場
不動院五劔堂良泰閑帳○芸金松山傳ち牛込寺久成ち祖師閑帳
仙ち五劔堂安松○芸金松山傳ち牛込寺久成ち祖師閑帳○中野法
○下谷五条天神天満宮閑帳○慈宏山田福ち牛込羽根湯殿山芸金雲立良
坊佐之間より大日如來閑帳○義町平河天祥肉そ小涼淡焉而神虛空焉

弁天社 ○ 六月十九日丸山島若寺祖師圓狀 ○ 六月十一日儒師翁恒若章卒
林義方作白山
め清ちふ事れ ○ 夏より伊豆大島燒始る南海火燃ゆる下川沖にて夜々火光天炎
曉す者ぞ見る ○ 八月十九日夜向焼うそに及栗津義仲ありづきも水弓義仲みずゆき也守本
ありし
考証曰林既如東芭蕉翁像圓狀 ○ 八月廿五日書家名山小眞卒きよま名尚賢称平庸
○ 秋魚櫛きのこアマメ乃小田原の海中アマメノシタハラ大魚来る丈又四十尺八九方脊中アマメノシタハラ又坊
の類アマメノシタハラを名とメウガサソとりよひうる太船アマメノシタハラをも覆カスつひとりアマメノシタハラ漁人
船アマメノシタハラれく海アマメノシタハラへ出る所アマメノシタハラ一〇十月同本不動尊肉身武昌寧寧摩那谷保天
神開爐アマメノシタハラ別アマメノシタハラ安樂也 ○ 十月甲子身延山七面宮より出火東諸の者怪家人多々
望アマメノシタハラよもがよそ遠アマメノシタハラ者多く九死一生の辭アマメノシタハラとてゆ附せアマメノシタハラもあらどぞ

案永七年戊戌
七月閏

二月朔日より後日まで、佐渡山極原根本寺祖師圓帳○二月十二日

俄より大風起り本石町より出火、靈巖焉深川延焼○小傳る町子代田
稻荷寺廟靈宝教あゆて拜せしむ○浅野家の義士極致安と云拂が後
家(孫祖ともひ一計よりめせまう内) 薙髮してぬ海と号し、龜戸村の庵室よ居
ま切後を十六歳の時なり
○老後泉岳ちの門弟よ住して義士の善懐を吊ひ居テ、今
年二月廿五日九十才ふと終れり○三月三日儒師南官太漱卒(名岳
牛島弘高)○三月廿育より粉町平川天滿宮閑焼○烏森稻荷院神喜月
内作(別當)映光院○三月上野清水堂起世ある本堂造立芳園院
○三月吉日内作閑焼○お撰奥行の日牧者ハ晴天八月成し、今年二月廿八
日ちう御川八幡宮境内みおほしく奥行竹より十月と成し、由我辰吉
名主す○四月朔日より牛込田福ちある永井滿寺祖師閑焼
○四月より護國寺よそ甲斐大聖院不動尊(新羅三界像)閑焼

○六月朔日より御菴苑八幡宮より移入富士裾野寺我八幡宮より我兄弟の像

荒人神玉波明神 虎牢^{アシラマ}開帳

○同日より御菴苑中央より大日如來開帳

○同日より閏七月十七日巡回向院より信州善光寺弘院如來開帳此時開
一ノ子賀橋漢鳥亭焉るが求よりてニ又其牛の脊ふらの名号をうらに見
せものふ等^トと利をねうどりふ又餘江源三郎古次を平ひよりの細工にて造^スと美室と
是^トはくねおをえきて松井みどり殿又作り^スちよそせりの思恋とりつゝをせりの事いづき
石舟^{シキ}也^ト○六月朔日より御菴苑南於大佛勅進御生世大黒天開帳

○六月十六日俳人小栗百万卒西半於中○六月廿二日より多田茶師内不

了武五十条村吉光^ト親世^ト光孝法印像開扉

○七月朔日より芝菴宿

常陸國鹿島郡子生神宮^ト赤方天^ト安^ト○七月朔日より芝菴宿

社地^ト千住勝專寺^ト誓光明神開帳

○牛込七軒町多門院^ト身毘沙

門天屏帳○三田寺町意服^ト糸引^ト親世^ト中^ト乃^ト娘蓮^トモ^ト開帳

織ウハスナリ

○七月朔日より湯島社地^ト武州埼玉郡野島地藏^ト開帳

津山

○七月四日書家山岸榮海卒名譽光林^ト榮^ト○七月八日小刻下水花巖

本不法恩^ト喜^ト英^ト○七月十六日より淺葉清水^ト千牛親世^ト幸^ト堂建^ト成

就^ト多^ト開扉

○七月廿八日より浅葉^ト中^ト智光院^ト信助善光^ト越^ト村健生^ト莉^ト萱^ト

感得^ト孫院如^ト未^ト聖^ト徳^ト子^ト

莉^ト萱^ト新^ト親^ト子^ト比^ト慈^ト矣^ト院^ト

院^ト歡^ト迎^ト如^ト東^ト開^ト帳

○八月廿五日^ト寢^ト戸^ト天^ト海^ト宮^ト祭^ト禮^ト祥^ト慶^ト列^ト古^ト例^トの如^トく又

產^ト子^ト町^ト此^ト侏^ト物^ト出^トて^ス被^トひ^ス大^ト方^トあ^スべ^ス乎^ト後^ト

○七月廿八日儒師鹿島探春卒名^ト房^ト号^ト東郊^ト秋^ト

要^ト保^ト天^ト穂^ト小^ト妻^ト以^ト中^ト地

安永八年己亥

正月十四日夜青山熊野權現別當淨性院有火○二月板障除^ト現境内

ゆく内旅所は本地観世音開帳○川崎半間寺厄除弘法大师奉
堂修復成然本舟開麻○美土山聖天宮西の蘿小舟の池あり池中より投げ等
子投げといひ付一ノ年大矢不置之池も埋と石像も土中不埋れ四十年未初る人今
年の美ト縁々八日市場の百姓平山忠左歩とよりのに戸主あく所を借りて酒樓
と景徳を改めニ条小橋を架して三橋亭と是又景徳の女小機と鐵らしき客
ふみせりとその時の衣像を極めて之を浮き舟をたまうと山上不移にて今左
右集衣婆の像也あともとさううべ○四月朔日二日大不寒一二日大電降○四月八日よ
り淡葉奉法おもとを新曾妙顯ち祖師叙述如來開帳○四日より回向院
まで伊勢朝舞岳金剛絕也虛空庵菩薩開帳○押上最教寺蒙
古退治旗曼荼羅を拜せしむ○下谷祐太ち摩利支天開帳

○四月八日より淡葉極寺えぞ往々然野寺地跡あそ山根智國師開帳

○四月十九日迄百日の方ね明江の房本宮岩屋安方天開帳

○四月十九日迄百日の方ね明江の房本宮岩屋安方天開帳

○四月十九日迄百日の方ね明江の房本宮岩屋安方天開帳

○色宕山内を淡葉山虛空庵井并中腹恩林堂地蔵井開帳別當延命ち

○五月十日より九月七日船着並勅進不^レ之南於東至二月堂観世音井開帳

○六月八日より茅協町某師内を武州下新屋村東の寺吹上観世音開帳

○湯島元林社地を多摩郡谷吉田領新里德性寺某師如來勅令不

帳○八月より深川八幡宮幸地愛深明王開帳○小石川毎量院小野

の小町の墓を立和町より移へる由今年小町の九月忌日より八月八日

法事修了小町の祥焉六月道樹植の巻サ乃程崩小日向水引下辺○薩羽度品川の前郎一院殊老の

革を磨て極らる者今これを珍賞す世不盡小○九月二日俳人梅教菴五連卒

享年小石川一多き事一多き事○九月より十二月迄小網町より甚左衛門町一源のことを御橋を

壊ちひまの橋を埋め去る○九月十五日牛井前多御社神樂を演一童子

町より出で移り物を牛乳がて後中絶也○去年暮より体至大
鳴焼虫夜毎西南門朝してはたまに延も答へられ○十月朔日夜より
二月延灰雲の如く降る大鷦鷯様高燒アレギモ灰江戸也と
り○十月廿三日仰人善家を簾卒九世目卒業上之の山下
故の内今年堂宇を修理せし小本堂の様上より今之帝釋天の板本
多そぬくこれを手て是處ちみ作てて左の失ひ一卒業上之の日庚申ふ尚
○今年元日書家鳥石葛底京於ふ於て卒六字君岳号白虹
○十二月十八日平賀龍溪卒名因倫林深内号風東山人榜揚總衆もふ尋
一吉安水九年二月とも云

安永九年庚子

正月八日書家後山敷簾卒名秀盈後山流の祖○二月十五日書家山本昌
信卒称菊治三四○三月廿基芳千七十年供養六阿弥院妙法無量經

田向○二月朔日より湯島社地にて上野世良田感應山也ねむ十一面
親世彦圓照○麻布若福も冠様聖德太子圓照親家上人草八字名
号せ祥せしむ○千駄ヶ谷八幡宮神功皇后喜日御神圓照○三月朔日不
市谷柳町光德院子を親世彦圓照○同日ちう池の妙法も祖師冥照
○三月十六日青山善光もるを攝津経波姫江光寧佛圓照和光寺
○三月十六日永代も葛飾那吉川延令も地益も圓照○四月朔日より
多西福も毎量壽仏德竹持親世彦圓照○四月朔日より極樂水光寧も元木某師
圓照○四月十五日より巣有村祥雲も聖親世彦井深川寺町志篤もふ
圓照○四月十五日より巣有村祥雲も聖親世彦井深川寺町志篤もふ
羅漢も三市堂建立八月の辰成就秋又坂東百親世彦安室供養あり後藤善

○四月房州南浦黒國船漂着南京船客廿八九七十八人云々と
○育高田家家有木石を積て富士山を攀今月底船す○或書は五月
國運星かと云○育十日書家篠田定考卒号西浦○六月三百大雷雨
○六月廿四日儒師松宮親山卒名後仍称主於光源院○六月大雨降續
廿六日より江戸近在利根川荒川戸田川洪水村々人家を流し水代橋弊
橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴一○七月朔日より田向
院にて丹後天橋立成ねむ聖親世主附王丸為代化菴と因號○九月十
日儒師林東溟卒名義卿牛島弘福寺小葬○十月十五日山岡阿君京於小葬
右篤今年卒九月まで卒去あり○武藏志料写卒成時阿君の著輯
詩世百首あるも何のうつても其の裏に著すものす○武藏志料写卒成時阿君の著輯
稿成一卷文中ふぞろひの名の故事人物お各部をかねて但一全體の物とひそび又後
略作の紫一卷の後編とあると記せり或あり写すみて世ふ稀なり

此年間紀事

堀の内妙法ち祖師追日东省人群集ひ○安永始の以王子彌延谷中辺西玉
写就せられ不巡りを定む○江戸小二十五番所田光大师巡回所を定ひ
記ふ○安永十年俳人提亭北櫻の種もひと句集本載る不のま時代の文物商物
目録左小畠記を「菓子屋」下谷度小路今は革町今木越後用町の事すりや「大佛
餅」淡茶並木「輕燒」茶荷舟「蕎麥切」淡茶乃好度福山牛糞糞之難司令藏の内
下谷車坂「船切」麹町「揚枝茶釜五倍子酒中花」淡茶淡肉「料理茶屋」深川市
塙淡大波や芝口妻日野「あづかく」林田佐藤木町山峯「田樂」甲子年「船」日黑相
深川八幡宮二軒茶舗「す養鰯」彦馬高西太郎「麸の焼」板塙助熱「隅田川諸句並木」
「御所かに」山野「船中」「蕎麥切豆腐」木挽「あへ雪うさ茶」田中久人
「黄侯」う堂町翁吉平吉「淡茶碟」淡茶「いくよ解」あは「此外ゆき」
ホト花季の名不拘の名所をも記せり○わ樓取谷風櫻之助小野川喜

再按る
小松会
出の文
文政四年十月終れり
小石川慈照院
小葉院

三郎歎泣聲雲右歩へ行る 安永の以ひたて御川承ち
蜀山人本柄岡持唐衣襦洲 ○軍談師馬谷辰一祐 石井兽石行る
○浮世繪酒居店清長 粉を柄繪本美住のじようひがふ巧か成
志川東町 金福 東平哥川豊春 一竜 あれる ○能人松齋菴を醉四時游観録
といふあ面榜をあらむに花曇是小物なり ○淺茅も境内石地義も
因果地義 流行之後奥山三途川眺像行の若多一 ○先先繪者境内茶
店の婆 油揚をねくわいと喉内飴出で食ふ皆人見る ○婦女の
饗き始る ○若入温石始る ○裸人形腰折れといひ送り始む

○小石川傍通渠を築いたり一門の表町角小屋は庶民を湯とりよりの田樂菜飯の
店を出ててひもとの物を購生質強ひをあせり弱きを助あ頗る俠客のりのり一著年よ
足浦安やうの生れをして化頭をすゝ山主林田ひぐとの名れてもて踊る或は女のからきをう
こう小原女とすり巫女の生れをうてそぞう或ハ若狭藩中の娘ちのあふ強てされりきと金頭ハ
かゝれどもうなば文化のまに林田安やの時幸保才ゆく牛のとふをうて踊りとおのれも音
うすをほせ七十金えみくづる 南畠先生文化元甲子秋お傍へ趣うれ附高船の清人程赤城のあ

里へかの石已室の筋と丸を二つ分割ちゆく面白絵仰り一とくすれとぞ衣色ひぢ
画儀小南畠先生の贅賛あり おまつりと祥樂の墨は石已室うかれ本旅や花させ前
○安永中鳥山媛校遊里み遊遊女漱川を身立 巨万の金縫を費せり
は捨投諸人小金縫を貸して利を貪る ○山主神田祭礼の時花万度せらびきゆる
けらめゑつひ小眾科小委せられとなり ○安永中越後の青そとさせといふ
魚城止むれづ地車を除て實万度と号ひ ○大女のかわらしきをあわせり

天明元年辛丑 四月十三日改元 五月閏

正月八日新竹木町和國餅の店より火あ芝居その外新焼靈巖鷺鷺の小
糸る ○二月朔日より浅茅妙音堂を兼食名額谷長勝ち祖師并帳
より圓向庵にて下総小金 有る 菩提化宗 一月寺歎泣如来不動を用膳 又八箇三聚
きり井 ○三月十四日十三日と多田やまと内まで信州善光寺圓玉如來御室文内
少々現 ○四月十四日十五日沼田延命ちよそ 拝 ○三月十八日浅茅三社権現祭礼久々詔方へく今年祥雲家松産子の

町まちが出で練ねりを出だすだ後の中なか後の まつ○四月八日より圓向院えんむくいんにて山城嵯さき峰みね二号院にごういん跡地款迹せきちくわんせき

高光大師閑帳こうこうだいしがんぢょう○淺茅本法堂あさなぎほんぽうどうより下總國平賀本寺祖師閑帳ひらかほんじそじがんぢょう○茅場町

菜師肉なめしにくと和多大峯わただいとう天あまの河か奈な方がた天閑帳てんがんぢょう○吉川菜師よしかわなめし井上榮よしかわいのぶ士じ院院いん閑帳がんぢょう

○敷さしおガ楊イモウ案あん源げんちより甲斐國郡かいこくぐん内うち小野この村むら西方せいがた十一面觀世音じゅんぜいん閑帳がんぢょう

○同白不動尊境內ふどうそんきょうないより武藏熟社住吉和方三神閑帳むざんじゆきちゆうきちわがたさんじん まつ大富同だいふくどう

○六月五日淺茅寺第六天衆禮神樂あまくわ牛うし一练物いんもの牛うし○六月十四日儒師井上榮いのぶ名速なはや林はや芳よし夫お天閑帳てんがんぢょう○古川菜師こがわなめし井上榮いのぶ士じ院院いん閑帳がんぢょう

○六月十八日四谷天王福壽案よつやてんのうふくじ源げん禮れい神樂じんらく牛うし一练物いんもの牛うし○七月五日より圓向院えんむくいんより奥明外濱そよがわ而降ひるがへ

○秋葉東港水江戸橋あきばとうこうすいえどばし源げん禮れい神樂じんらく牛うし一练物いんもの牛うし○七月五日より淺茅玉

泉いずみ岩いわ山さん二社奉祀ほうそく源げん禮れい如來にょらい觀世音じゅんぜいん井上榮いのぶ菜師なめし如來にょらい天閑帳てんがんぢょう○同日六月淺茅玉

泉いずみ岩いわ山さん二社奉祀ほうそく源げん禮れい如來にょらい觀世音じゅんぜいん井上榮いのぶ菜師なめし如來にょらい天閑帳てんがんぢょう○同日六月淺茅玉

世音閑帳じゅんぜいん○東殿山渡園院とうでんさん常念念佛堂じょうねんぼくぶどう五方日圓ごがたひけん○千谷極ちやく大だい中なか中なか

山法花經さんぼうかきょうち祖師閑帳そじがんぢょう○七月五日より湯島社地ゆしましゃぢにて小野社同安並おのじゆう天

油宮閑帳ゆぐう○八月より淺茅寺荒次不動尊閑帳あさなぎじ○九月晦日不刻吉原休

見附みつけ一本一本は下下すり出だ火ひ町まちの除燒じゆきやる此處この假宅かりじやくありあり○十月十三日蓮

上人五百年底法花宗しもんごひゃくねんの院法筵いんぽん設せつく○十月十四日同蓮

基德門律師寂きじゆりん諱普寂ふくじやく号ごう及光じこう○十月廿日より十一月廿日迄淺茅觀世音

閑帳がんぢょう○隅田川兩岸すみだがわりょうがん一覽いつらん二卷板行成ふたまいん軸物じゆものを列はべりするより主教しゅきょう少すくな一雀せき岡おか薺冰なづなづの草

闇くろ林はや茶安ぢやんの波なみえあつてあきあにもゆうゆう○三月七日二井親和きいん草くさ八十二号竜湖株りゆこ株かぶ業ぎょう達人だつじん有ありしととを

深川ふかがわち下し塔林とうりん茶安ぢやんの波なみえあつてあきあにもゆうゆう○三月十日より淺茅念佛堂あさなぎほんじゆうどうより足深谷汲華嚴寺あさひやく十一面觀世音

天明二年壬寅にんいん

三月十四日より永代尊えいだいそんを號ひよ八幡宮本地垂深ひぢふか五軒ごけん約やくノ誓ちか願ねが也よ青

闇くろ林はや茶安ぢやんの波なみえあつてあきあにもゆうゆう○三月七日二井親和きいん草くさ八十二号竜湖株りゆこ株かぶ業ぎょう達人だつじん有ありしととを

深川ふかがわち下し塔林とうりん茶安ぢやんの波なみえあつてあきあにもゆうゆう○三月十日より淺茅念佛堂あさなぎほんじゆうどうより足深谷汲華嚴寺あさひやく十一面觀世音

閑帳○同日より圓向院にて奥州金花山毎才天閑帳○薺金板に傳る老中山
智衆院鬼子母神閑帳○茅場町某而肉にて小津治為め神○五帳○三月廿二日
金剛工尾猿直政卒林綱左衛門○三月廿九日儒師序山兼山卒名世藩称冬義
小華○四月二日儒師後藤芝山卒六十才林路吉房○六月四日細井九臯卒名世約
一里深准乃人廣洋の男也○六月三日戯作若伊庵可矣卒に谷理性也
寺力村滿於小華○六月天文
牛糞牛込菴店より浅茅移牛込の先の作田佐々木○七月朔日より圓向院
至武州比企郡三保谷村養生院子母親世吉弘法大师作及准本号閑帳
○七月十四日夜九時十音ね大地震然んと外へ出立て呂少一の地震ハ算び
此甚お及大山の邊この外つよく屋上より石を落てゐる○七月十五日より下谷正法院内々く
山落てゐる一丈一尺又小田原の落てゐる○七月廿六日より下谷正法院内々く
上久能林光照延喜四年利根川より阿弥陀如來閑帳○十月廿日俳人弓場存ぞう
義卒号方丈秀淡室○十一月廿九日俳人谷口樓川卒本烈中
小華○今年不獲玉も

東三井ち地彦井園帳○三月より淺茅奉法もて發め岩本実わる
祖師奉帳○三月廿三日南品川大太○四廿五日靈巖島火事○四月
八日深川邊大火○四十日淺茅寺の多か丈○四月朔日より湯島田浦
寺十一面觀世音立大塔○四月より淺茅ち附折楠井本堤十一面觀
世音開帳○同日より淺茅日高ちみく興明舍津西光日限地義等
開帳○四月より下谷五條天神天海宮開帳○四月八日分芝變宮燈觀
境内を下總重米倉山等妙十面觀世音開帳○四月十日より
湯島社内を小日向若翁谷照地義等聖徳太子不動等開
帳○喜より霖雨時晴も稀○六月十六日より大雨降續十七日別て
大あふ住淺茅小石川邊水大川橋柳橋築築る小日向大洗堰石垣崩
き神田上水切る○信州淺茅山大坑火木燒にあひて七月六日夕七ツ
至快晴と成る

淺茅山燒出ゼハ素のじより既り常小薪一束づ別て薄く燒却一束ハ六月廿九日の如キテ
望月宿の邊より下る小烟立雲の如く空一面小腹ひ炎い稻光の極あふえて火一束一束づ
七月四日より毎日雷の如く山鳴り次第ふ騰く方日夕方より青色の灰落灰中より望七
日の於大少鳴る有強く昼夜あり樹同せ又より早々位迄の輕石の如き小石降り又お
れより七時より灰降出一暫時間灰の如く人報も見え分らぬ内うそへ火を燈一束づ之に
用すあれの本像をいくつも立てて火あふる往來せり掛りよ二所計りみて空隙すと見えしが
又陽方の如く小室火火の如也より暫らく而そ小石降りる有強く火は子もづき灰落つるわ
くもれ雷強く拂り安心中ハ三所ケ而一落る空へ而ひて後火を放ち太鼓を打て雷除と云ひ八日
終て的害根のめくえより少一晴後未も及ま一放是迄も火灰八寸位積りる奇近二日は必ず
留居辺門所吉井邊みて一束の不量りしほ二石あり陽方を以て小石降り沙も多一松井田不
て三度計り經井次皆鐵追引板鼻の邊を二所へ計の右隣り人家を潰す一灰ふ人以て一ふ
家を捨て退き遠くのれて今を全かせもなり小田井大谷の邊に移転など出く人を多くなり
祖師放火を恐れ退く七日夕我妻邊の山より火蛇もゆく又九日已の時利根川の上吉妻川兩
者うち水やくみがしが暫時泥あゆの如く押そ人家の形子一中附八丁河岸の邊へ樹木家
屋人の死骸流き来る多縣一くさ外の川く焼石お流水の熱湯の如く上明一國の民も二三日登
夜途方より上並無谷邊遠を遠われとも五年の弓他物をばばの方の難あれ

死ちたりの九二方五分餘金りよ小田井宿の傍の障子一西風強く一と逃が宿（宿屋）と云
り昔天治元年七月みゆくのかきうりより一由中古代ふるえり又元禄十六年十二月みゆ
玷山焼（れきやま）れども八年の如くあらわきうりと
はナシても硫黄の香うる川水中川より引陸（ひりく）通一伊豆の海辺を走く濁る流て芝浦築
地段焼築の邊あらか今ふも津浪起るとて太々轡動一個島の男女まで移らば雜具を運ひ
く陸地小島るのみ二日あり

○此頃錦麻價貴（きぬへうき）一○夏とう秋追幕（きみあわ）而冷意（さうい）ふく惟子を足る日少（すくな）

大字浴衣錦入立（おおじゆきぬいりだい）一○七月十日よう甚電岩北肉牛を本所五箇向收院延命地義堂

義堂 宵燈（よしろう）○七月晦日古墓八代了泉卒（よしろう）一○葛苑本田福翁社修復勸化

漸免（せんめん）して江戸中の私宿（しゆしゆ）旅歎（りょかん）を募（めぐら）る○関東奥州筋臘燈（きしん）○八月十五日亥の

刻月蝕（きづき）是夜（よよけ）食夜の宴（えん）もあれど○九月十一日書家小山保秀卒（よしむら）一○葛苑本田福翁社修復勸化

義（ぎ）○九月十五日神田明神祭礼の時神主取ふより神雲（じんうん）を十番と十一番の方
一役を手（て）す由年（よねん）始（はじ）り是夜の二千六番の支（し）度（ど）一りより還塵深夜小

及ひるが今年よりかくの如く（よし）ふ成り○同日より龜戸妙
義山權現宝庫（ぼうこ）○十月廿八日曉八時小僧る町奉子月よりお大太風あく

○秋の角力冬（ふゆ）小延て寒中お舟乃を今（いま）よりお大太風あく

大僧る町通旅籠町田所町老若川町極に町小綱町幸子因邊櫻町葺強
町毛岸船町小田糸町室町後蛇町至外教町焼亡門日午刻燃（さがれ）る
○十月書家松山天姚卒（よしや）一○名致和松源庵（まつげいわくわん）○十二月廿日この刻色派莫高越より
安少半死模絹（もくきぬ）飛ひ豊川通御前花後通（よしろく）川六石極半燒幸靈巖寺
津名宇櫛（うみ）の極近燒る○十二月廿二日著立幸乃幸方坐燒失

○秋の角力冬（ふゆ）小延て寒中お舟乃を今（いま）よりお大太風あく

天明四年甲辰 正月四

正月二日夜青山麻布辺太火（おほひ）夜四谷新宿燒亡○舊冬廿七日以より二月
三日以より琴星坤（こときや）の方小於る○四月廿三日曉八半時神田被治町二丁目
より大鳥町高木町向壁町堅木町新石町二丁目塗師町燒亡

○二月初午烏森稻荷素出一練地少氣○二月よう四月廿日追中の々

如東禪寺聖德太子國師○二月小川町三修稻荷院祚國師○三月十五日
より是月五日近田向院ゆくわ州園中嚴多モ道了權觀國師○葛西花文
村山堂寺號光明祚國師○三月廿一日弘法大师九百五十年忌○川崎草弓
も弘法大师開廟○獲也も復持院弘法大师遼石寺什物國師

○永代より山城守治平寺院縣社奉祀如志海觀音爲國懃○牛込多福寺
中山法光經ち年堂祖師日法上人國懇○流石牛込ちもて佐渡雜太
郡小瀬村妙宣寺祖師天祐○鶴戸天満宮國懇○四月より承訪谷鬼子
母神國懇仙臺院四月より除川靈雲院えいりゆいん也て京泉涌きょうせんのわ新延如意東肉行
佛舍利國懇○四月十日茶人清水玄昌げんじやう卒下谷竜泉ち○四月十五日且下刻
若原水道尾よしはらみずのべより出火廊中燒亡うちよりあがりよる仮宅向かたむけむかし西城草
芙蓉草フヨウノリ卓二寸篆刻せんくつのよすう○諸國吼鐘ごく門渡もんと乃れ人多死也

○五月二日萩原宗固卒 八十二号名貞辰万花園と号ひ沙先藤の騎士より烏丸光榮の門人として和寄てすゞに晩年をまつはる荒木松町にて卒す
安車桂 ちふ葉へ ○六月音古実者伊勢奥丈卒 七十九号安あ
上金峩卒 辛亥名號々神文卒 七十八号安あ
芝居れも義彦 七十九号保大義ちふ葉
○八月十日國掌若翁田浦風卒 辛十七号称高義
○九月十五日もう十月十四日近千住義服ちふ葉野島津山ちふ葉義光の國底
○九月十八日後益氏十三代延家卒 七十九号トモ
○十月よう五年の間仙鶴の御衣縫を務
らる ○十月桐長桐芝居櫓を改め附馬櫓と云ひ言をされ 乙冠内表大口の衣裳をそ
使者のすむの 一鼓一挺とぞ見ひ辨ふ
退風うどひよ ○十一月東本願寺本堂再建棟上 ○十二月六日夜太白星歲
星を祀る ○四月十五日五車^{星の}名^くと祀る ○十二月廿六日夜戌下刻八代川
峯より出でて南小風烈しく大名小路新櫓敷奇面櫓町付在下邊八宿町
の邊尾張町より本宿町芝居仙臺度あゝ舊邸の邊北の京橋辺と狹蛇側築
地海を西幸部南小田原町邊近野燒望せ七日申刻源助町邊まで火篭る

大小名藩郊町役ありて近縣一き燒かへ○十二月廿九日儒師井子柔年
号信介
淺ま久松ちふ某○十二月廿八日夜赤坂秋川のあより出大麻布長坂辺りで焼る

天明五年乙巳

二月十五日より圓向院にて諸倉称名ち石勅旨閑帳○同日より圓向院まで豆州
八丈島為朝明神奉祀地龜井閑帳○三月より側侍并才久吾帳○四月八日より
室之鴨下の宮并才久吾帳江戸より來侍奉○淺ま妙高も老ニテ江戸侍
寺祖師冥帳○三月廿六日儒師清田君錦卒辛七日
号乳雀桂○二月十日福王更琴卒名信成称者
庚未中之二号白周とりふ英畠の画を摹ひ室唐のひす
五十六歳を後十九歳を彌漫なり既に通一也ふ奇童といふ○前廿二日小川巻山卒名信成称者
五十六歳を後十七歳を卒小石川光岳ち妻義著書之於也
稱大二郎狗迎○同廿九日淳世修師石川秀範豈信卒名哈町旅舍ぬくや七名清と
信乃る小草川○同廿九日淳世修師石川秀範豈信卒名程寄師の樹園吸盤の义
酒至極ちふ
墓也○六月朔日より九月朔日迄圓向院にて供養清涼ち祝迦如來閑帳

萬年墨字殊ふ甚一終年春年集
後事夥^{シテ}一^{シテ}ぞ○六月十五日より陽島社地^トそ武丹野島地^ト
考案帖○同日より七月廿四日^ト本新一ノ月八幡宮旅而上刈飯林後林寺
辛九才幡道院中○亥より秋追早凶作○三股中側^{ヒコヨリ}兼牛代出未又方
智白院小善也
國橋向樂牛^{タヌキ}北地川家^ト八千^ト南の方十三方餘あり本所一ノ月より逢井
近川後^{ミサハ}の土を以參りて而^シ寛政元年^ト至て元の如く川と成る
○九月東辛卯^ト所^シ再建成就延佛あり○八月十日加藤枝直翁卒名
圓院不善也○九月十日より深川靈雲院^ト水戸祇園^ト越禪師大財將
千葉翁の父也○九月廿九日^ト玄德和村の五爪目燒木生
東天祀^{ミシキ}玉祚閑祠像閑帳^{ミシキ}玉祚閑祠不持の令^シ玄德和村の五爪目燒木生

○十月十九日儒師久保盈齋卒名仲通称二郎左衛門辛吉也

同 六年丙午 十月同

正月元日丙午を午一刻ちう未一刻迄日蝕ひうちは既闇夜の如一

○正月廿二日丑九時陽島天神裏門お杜母長家より出火西水風烈々三組町妻ゑ社神田の神門お并用閣よしやく旅館町邊外神田より通町筋奉町通日が橋近東ひ小田原町塩江町小網町櫻町草薙町あ庄芝居しば近辺大傳お町小傳お町ち嶮町けん波町なみ川かわ飛火熊井町相川町太島町邊八幡宮はち居仲丁邊燒亡翌廿三日曉落あ聖堂神田の神ハ卒社そくしゃ祭まつり

○正月三日夙烈々午刻西久保大養お家いえより出火赤羽飯倉町あ燒失ち院いん光院甚外燒亡ひえより龜木かめ田町海峯邊燒ひ申中刻管幅三寸長十五町ちとりと○同廿四日夜神奈川宿三百軒せきの餘燒のこる○同廿七日午刻奉所四ツ同よう出火釜盛邊燒ひる○壬夜平川御門外失火おひ

○二月二日荷田善滿くわだよしみつの女めの蒼生卒卒お寺てら圓學えんがく小室こむろ和わおを○二月六日午刻正ただ夜よ淺あさま令めい林りん小糸こ糸いと

小石川蓮華さわらちうぢ谷町二丁目より出火乾風強きぬ丸山邊まど弓町幸さち元町西茶水春日町新燒あら立防たて燒ひる○圓向院えんこういんふて上總じょうそう小田村おだ称念ちめん歎歎かか孫陀如來開榜くわいぼう○谷中延命院七面照神しじゆういん新しん榜ぼう○二月廿三日相羽移移根山あい鳴動めいどうく女めのの以ひ地震甚ひくあ日百度計震ひくと云い○三月より復圓ふくえんむ親世お高たか閑かん燃に○三月十五日夜中雪降ふり櫻さくらの花はな接せつる○三月廿二日津瑞瑞語元祖病びやう若狹掃死わかさ辛才林庄陽荊裂さわらと雀翁しやくおうとりと○早春はるより四月の半返而かかく日ひ烈風れつふうくと然人ぜんじん火災ほさいの傷きずを安やすきこころるかか—

○五月の以ひより雨勢あざまく隔日かくじの雨あめからし七月十二日より別べつて大雨降ふり山さん水みずが少すくなて洪水かみずと旅たびままう十三日十四日より牛込うしこ小日向こひなあ石切橋いはき武家ぶけ方かた磐いは峰みね追お入いく水勢みずを多く多く橋はの邊へるむおお神田上水掛橋かげ危きく大勢だいの火ひをひて防さぐとも後ご裏うら橋はの上うを天程あま水みずありある十七日十八日より水みずが減へくと日ひ向むかひ下さ山崩さんばと上う水みず通つれれ水みずをを一月いつの餘の絶きくと圓平橋えんぺい筋すじ遠とお橋は危きく和泉橋いずみの佐橋さ左流さわ十音じゆより大川おほ川かわを住すみま小場こ原はらの水みずが少すくなてもとよよ子こ住すみま大川おほ橋はあ玉橋たま危きく桜さくら船ふね新しん水みずありあるキ所深川ふかの家いえ屋やを流なれ平井ひらい支那邊せな水みず一丈二尺よと云い大川おほ橋はあ玉橋たま危きく

十六日往來等十七日至新太橋中の石は間流失承代橋古方極流失隅田堤ニ石極或不押切男女少々向けあ因格を深り迹あり陵墓邊に船と住第せう吉原の麻水より雜司谷大水を陸家へ度一は谷牛込邊に立木あれど一あ日水立て船發せり、生除石垣等の崩れの如くか不いと、つゝだ。官府より助船を以て危難を救へられ十分あふ西廣小舟、内故小舟を建られ貧民を救ひる十九日より晴天となり廿日より水少しつたて京の深川、船底へふきう因八舟を立近處の洪水へとふすく草紙の屋更相の取扱絶えぬ價値せうとせ

○夏より冬ふり諸國外壁堵人困窮す○七月舟自江戸中榜、油麥切
○猿まん月院門あると市とりより菴辭の根を以割麦の如く製
支食と、又葛の如く製して食ねるも糊とも用ひ玉茎をす。官許を
ゆく九月の末より立て船足近も賣弘む○青山橋太原の飯ヶ橋よりに
匯は權太傍於仁東より古き碑あり畧してのみを候る所といふ唐
應二年七月九日と云ふとそ此碑を安然大粒觀と察む今年何とて
う事候人多うりとぞ

天明七年丁未

正月十六日佛人木丹率四十九方廣傳中、宗照院奉葬之。○正月十七日登能青山より
出大西南大風權右京敷之。十一月谷邊起火燒。○二月角船人船迦蘇雲太
清の十三面石の時を舟先露宿修方歩の深川、承代ち八幡宮の後ふ雪右清
つら者の女お等しき碑を立る。天恩乳平文を據也。○二月八日医师山田圓南卒
辛亥名正珍林家俊詩作名あり。○二月廿九日佛人釋身居土卒名師光号百忍
名中南翁之。○五月署龍藏高寄谷淺美寺親善堂、新政権卒太極退治の圖を
画之額を納む。模二間堅九尺もひる下に額ふ付くをこの評判なり甲冑を外故寔を失ひて
由りてあれと吉慶を潤せざる不く、人物の活動普通の画匠の如ふふれど
○五月あつて米穀ひ舟小走之を價半酒之市中の番木屋も售り
あつて門戸を開き廿日より廿九日迄雜人木肆酒店を営業穀を貯め
たる家を打殿に事夥之。此のことをあらも莫童よこりとぞ

官府より嚴しく制さゆめし町まちよりも竹棚たけひらを擇えらへ教きょうき園えん嚴室ごんしつより一び暫時さうじより絶れり○五月賊民こぞくみんに救すくととて金子きんしを徴徴り六月米まい太おほ豆まめ下げ車くるまを以もつて買くめらる○八月十三日磨學老まがくろう小沢紫さざなみ江え卒そつ名政敏めいめい孫多門羽延はのぶ○八月廿日書家伊藤水林卒いとうみずばやしそつ宋万年号匡山くわうざん清美寺きよみじ寺てら○八月廿二日谷中感かん想おもす忧内うないふ於おく東叡山とうえいさんの種たねを彌改めかむ七月廿八日善高ぜんこう時始ときはじて撞つく○九月七日飯僧師雲中庵くもなかん大草おほぐさ卒そつ七十岁大島氏名陽喬空慶居士ようきゅうくうけいきじ○九月廿一日の水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○土つちの九日曉あ卯と刻とき五吉原さき南町なんまちより出で大おほい廊ろう中なか焼やる花川戸はながわど迄まで燒や次つぎ佐吉大橋側さよし御川移地おき八幡はちまん中間ちゅうかん西永町せいえいちょうに焼やありと是そて御川要津おきち不葬ふざ次つぎ○九月廿二日井の水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○十月廿一日の水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○十一月廿一日の水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○十二月三日水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○十二月辛酉き酉院いんより余のひ凌間りょうまん山さん燒や奥おく洲しゆ家園けいえん敬明卒けいめいそつ号くわい東山とうざん林務苑りんむえん○十二月辛酉き酉院いんより余のひ凌間りょうまん山さん燒や奥おく洲しゆ飢馑きん疫えき癆めい東出水系ひがし於お大火ほだい死死溺なま死死或も禍わざわざ伏ふ羅ら而もの爲ため不施せ縫ぬい鬼きと修しゆせりらる○四月廿一日の水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○今年正月晦日洛東風ふう栗くり過すぎよし出火でかりと洛中おきうち洛外おきがい火ひと火ひを上あらわりこの火ひを委曲まきまわる又また大典だいせん禪師ぜんし平安賛さん成なる記きを以もつてらる

天明八年戊申

正月元日大雪降ふ○正月廣東人參賣さんめい買く止とめありしをゆるしゆる○正月

四月朔日より深川浮うきかるあり身延山祖師開あけ火ひ○四月十五日より淺茅店あさもてん主ぬし池上旅立祖師昇の火ひ○四月十一日夜戌いぬ刻とき光物花こうもの花はなの如ごとく○五月八日儒師大江維翰卒おうし京師きょうしの主ぬし交衡こうこうが子こ也よ○六月十二日二代目英一蜂卒えいいつぼうそつ西にしの佐光さこう○七月十六日書家極端ききょく季梁きりょう卒そつ名林めいりん号くわい然ぜん居士きじ○八月廿一日書家閑敬明卒かんけいめいそつ号くわい東山とうざん林務苑りんむえん○十二月辛酉き酉院いんより余のひ凌間りょうまん山さん燒や奥おく洲しゆ家園けいえん敬明卒けいめいそつ号くわい東山とうざん林務苑りんむえん○十二月辛酉き酉院いんより余のひ凌間りょうまん山さん燒や奥おく洲しゆ飢馑きん疫えき癆めい東出水系ひがし於お大火ほだい死死溺なま死死或も禍わざわざ伏ふ羅ら而もの爲ため不施せ縫ぬい鬼きと修しゆせりらる○四月廿一日の水妻みづめ死死りといふ故言ことごんひろかる○今年正月晦日洛東風ふう栗くり過すぎよし出火でかりと洛中おきうち洛外おきがい火ひと火ひを上あらわりこの火ひを委曲まきまわる又また大典だいせん禪師ぜんし平安賛さん成なる記きを以もつてらる

此年間記事

天明の頃名家な儒家じゅけ金岱きんたい旭山あさひさん芝山しばさん北海ほく海雀鳴くまくら瓶山びんさん詩人しじん西野にしの僧そう六如ろくじよ名慈周めいしゆう書家しょけい其寧きのう東江とうこう新和しんわ改かい嶺れい韓天壽かんてんじゅ牛山うさん和歌わげ千蔭せんぎん

春海自寛重門保田諸多林△画家宋峯石嵩谷窩溪芝蓉
山魯楊氏秋山楊井氏△俳諧蓼太完束研齋殊未得署金羅貫阿
言武祇平白雄△狂哥四方赤良蜀山朱樂菴元の本ひ孫大庭裏住
宿松飯盛康津初生郎鶴松金持きら蒲鵠△戯作者通矣卷三
ト・志川美町狂世珍芝全交万象亭山人唐東三和右夫人を誠化若
の六家柄とりて三外可矣七珍万宝草の唐丸觀水堂大阿芝葉樹下
石上あとて何事へ何り△江戸浮彌璃化若紀の上太郎翁象亭二代目福内
松貴四客揚岱玉泉堂鬼服安治焉馬室朴子△琴曲山田檢校
△八人藝川萬哥命絆る才子小奇遊あり△光明のじ地への變態する
諸侯とりて三景を有る○光明時代の名手を集く江戸名物廉子と
歌せる紙あり合本の画又数句同編一二セ記陸漁漫於本町色紙豆齊
甲戌年梓乃△同編一二セ記味噌屋元信中村一翁茶庵

○寺比岳尾鑿形油町紅繪白木呉服牛町益田日高武吳喬被笠塗物清水裏復繪初化若
△寺城左近と清吉茶屋^{サニ}二官依^{ハシマ}横山町花萼城^{スル}所蔵雪せんざ^{清吉裏市}
△志^シか△吉魚朝日の^シ△清吉茶^{サニ}郎^シ日高作^{ハシマ}鈴込富士園扇^{スル}趨町助也や^シ△志^シ茶
△新堂吉清^{ハシマ}赤坂鶴^シ毛坂元信^{ハシマ}松本守^シ辰合^シ個島^シ吉魚本^シ朴樂^シ鶴町歎
△湯島唐人茶の^シ△清吉茶^{サニ}屋佐伍信子^シ△あとの歲世候宇摩^シ而^シもとふ思^シハ
太宰孤猿四郎^{サカイ}武藏屋權三郎^{ムサシヤ}△^{日高}參斗房^{シカウ}甲子屋^{サニ}清吉四季菴^{シカウ}中村一翁茶庵
△義^シ百川^シ素川^シ春川^シ朴^シ屋宗助^シ△^{日高}朴信^シ朴信^シ青^シ華風^シ生^シ驚^シ眼^シ白^シ沙潮^シ走^シ作^シ暗^シ雷^シ
△西山突兀^シ接天立^シ南地^シ淡^シ華^シ春^シ澤^シ開^シ指點^シ虛無^シ情漫切^シ欲^シ競^シ鰐^シ背^シ問^シ蓬萊^シ
○此財力^シカ^シマ^シ芳町本^シ松町^シ酒^シ島^シ朴^シ肉^シ鰐^シ町^シ一町代^シ朴^シ田^シ花房町^シ朴^シ野^シ市^シ谷八^シ酒^シ官^シ
○^シ勤進^シ比岳尾芝^シ皮附^シ朴^シ田^シ松^シ町^シ一^シ是^シ五^シ達^シ清吉^シ田^シ家^シ門^シ考^シ翁^シ入^シ格^シ出^シ山^シ有^シ○^シ口^シこ^シる^シ是^シ翁^シ女^シ茶^シ度^シ小^シ弦^シ内^シ教^シ松^シ町^シ提^シ灯^シ店^シ佐^シ居^シ度^シ有^シ○^シ六^シ如^シ翁^シ詩^シ鈔^シ小^シ酒^シ候^シ茶^シ樓^シ七^シ賦^シ一^シ毛^シ有^シ安^シ承^シ天^シ照^シの^シ心^シに^シ程^シ有^シ鳥^シ有^シと^シか^シぬ^シい^シ一^シ

洲寄茶樓寓目

高樓瀕海氣清哉時復斜陽漫眼來青華風生驚眼白沙潮走作暗雷
西山突兀接天立南地淡華春澤開指點虛無情漫切欲競鰐背問蓬萊
○此財力^シカ^シマ^シ芳町本^シ松町^シ酒^シ島^シ朴^シ肉^シ鰐^シ町^シ一^シ町代^シ朴^シ田^シ花房町^シ朴^シ野^シ市^シ谷八^シ酒^シ官^シ
○勤進^シ比岳尾芝^シ皮附^シ朴^シ田^シ松^シ町^シ一^シ是^シ五^シ達^シ清吉^シ田^シ家^シ門^シ考^シ翁^シ入^シ格^シ出^シ山^シ有^シ○^シ口^シこ^シる^シ是^シ翁^シ女^シ茶^シ度^シ小^シ弦^シ内^シ教^シ松^シ町^シ提^シ灯^シ店^シ佐^シ居^シ度^シ有^シ○^シ六^シ如^シ翁^シ詩^シ鈔^シ小^シ酒^シ候^シ茶^シ樓^シ七^シ賦^シ一^シ毛^シ有^シ安^シ承^シ天^シ照^シの^シ心^シに^シ程^シ有^シ鳥^シ有^シと^シか^シぬ^シい^シ一^シ

寛政八年
これより○下谷に施す宿中楓樹教様ありて毎秋鉾陽を惜むの名所として仰り
昔の紅葉と云ふものとのかう程にてなりとあり○姫貫井の本音の文ふ
か一中古より不詳始りれど武家よりこれより一價九金三四百あと費へけ
在市中より太高家よりぐる傳へたりてひのじより大坂より井戸掘工あや
簡易の法をひく速よ極り價も又直に近隣に戸中掘抜井多きあり町毎ふ
太きこれあり先様のは戸康子は桶町は築の井といふれあり冷あらゝ日中移、うらぎの新移
あらと夏月の冬の寒のどつひ井を汲で茶碗わんを考考御移よ替て高貴なる君
事中はあかの主源氏の井を穿て深水のみを重り是をそそ詠ふゆづる承ふ世のく移と壤の
井とりふとむせうこねうとも深井のまくあくへりをかみび又先様の以若井を一砂利場
田園のあくとうり汲ういて紀伊本宮文が生つ桶塙町尾然度満十井方とて始て掘ぬき井をかくを
一うち價數百金を費せしもの人を波せう水浸冷氣をせ井戸あり中の町の承ふ井を掘りる
通の苗りある井水ぬ尾三のりとて天明の始より赤鳥丸批把素面重出羽○松牛引の女藝者振袖
の衣れを着ての作田佐柄木町山東といふ料理屋かシツホク料理をやりむが料理がて玄番
改わぬようせふれいの浪花の光輝すあつやく料理趣向焼といふを紙とひくべに和年持ふれり
○天明中社ち殊ぶれう此時のねがて集めて万載集極む江戸萬葉集方種集多集などりの
とあうてす候の集数をかげば各せふられり

武江年譜卷之六終

